

当院のARPについて

門司松ヶ江病院 名誉院長 山浦賢治

専門医として四五年間の
治療経験から集大成の、
アルコール症リハビリ
テーションプログラム！

アルコール性肝障害の入院を好機として、抜本的治療を決意すること。本誌では酒害克服の寺内義章さんご一家を「断酒松ヶ江」(四四五号続刊中)の体験記二篇で紹介します。入院中に院内断酒例会で、生証人と出会う機会を持ち、アルコール症脱出に不可欠な断酒の体験談に学ぶことです。

体験談その一は「断酒松ヶ江」三〇〇号の寺内義章さん(現北九州断酒友の会会長)の寄稿「断酒一〇〇ヶ月、今まさに絶好調」の抜粋。その二は令夫人ヨシ子さん(現家族会会長)の「断酒松ヶ江」四四四号の抜粋で、私の治療信念にプラスする珠玉の文献です。

体験談 その一

陶酔感に魅せられて

若い頃から、酒を飲むと雲の上を歩いているような気分になり、その素晴らしい酔いに魅了されて、毎日のように、友達と夜の街を飲み歩いた。給料もボーナスも全て酒に使った。祖母にツケを払ってもらったり、借金もしました。

飲み方と言えば、トコトン飲み、つぶれるまで飲む、という飲み方です。いつも終わり頃の記憶はなかった。その異常な飲み方に、友達も一人減り二人減りといなくなっていた。

一人で飲むようになった頃から、酒が切れると手が震え、肝臓病で内科の入院が始まった。退院してすぐ飲み出すので、体がだるく、会社を休むようになり、妻が酒を飲ませまいとする。近所の酒屋さんにも飲ま

せないでくださいと頼んだ。

私は禁断症状の苦しみから逃れるために、酒を隠すようになり、家の中、車の中と、ありとあらゆる処に隠した。私が酒を隠す、妻がそれを探す。そんな生活が十年間も続いた。おそらく飲んだ分量と同じくらい捨てられたと思います。

妻ももう「病院に行こう」と言わなくなり、今日が何日で、何曜日かも判らなくなり、我が子の名前も忘れることがあり、臨死体験さえするようになった。

家族の誰もが無口になり、家の中に人の気配がなくなり、恐ろしい孤独が襲ってきた。私はこのまま死ぬのだからと、ポーツとした頭で感じていた。家族も死んでもしょうがないと思っていたそうです。

断酒会との出会いで娘の心身症も解放

そんな時、まさに奇跡としか思えないことが起きたのです。断酒会に出遭えたのです。会長さんや仲間を紹介され、松ヶ江病院の例会へ参加できるようになりました。あれ程止めることのできなかった

酒が、例会出席するようになると、不思議とピタリと止まったのです。

一年間は、例会のない日は、自宅の家庭例会に通いました。毎日が例会で、まるで別世界へ来たような気持ちでした。仕事も一生懸命に頑張り、高校生だった長男を、大学にやることのできたのです。

また、小学生だった長女は、突然に耳の中がカチカチと鳴り、痛みだすと一週間くらい続く奇病持ちでした。その耳鳴りが、私が断酒会に入っていたら、断酒させていたかどうかとピタリと止まったのです。私の飲酒が原因で、子どもをこれ程奇病で苦しめていたのかと気付いたとき、悔やんでも、悔やんでも、悔やみ切れない思いでした。

夫唱婦隨の例会行脚

何といっても、一番変わったのは苦勞した妻である。朝、台所から鼻唄が聞こえてくる。ファッションに心がけ、ピアノを弾き、花を活ける。私が断酒してから免許を取得してドライブを楽しみ、仕事も楽しい、例会出席も楽しいと、正に翔んでいる。

私が夜勤で例会出席できない時は、例会の様子をノートしておいてくれる。最近では、私より例会出席も多く、そのお蔭でしょうか文章も大層うまくなり、内容も充実しています。朝、会社から帰って真っ先にこれを見る。「愛するお父さんへ、お仕事ご苦労さまです」と言う書き出しで始まる。途中笑ったり、涙ぐんだり、感動して胸が一杯になったり、一人一人、仲間の顔が見えるようで、例会出席している気分になります。最後は、熟している妻。燃えている妻。満たされている妻より、などと、微笑ましい言葉で結んである。

例会は自分を改革する原動力

院内例会が私の心を引きつけるのは、いろいろな病院の入退院を繰返し、絶望と挫折感だけの人とその家族が松ヶ江病院の入院を良いきっかけと捉え直し、例会を通して見事に立ち直って行かれる姿に感動させられ、アルコールが抜ければタダの人と言っよりも、タダ以上の人間に成り得る可能性があることを教えていただき、私の励みになっております。

夫の酒害を誤解して苦悩の日々

振り返りのなかでは、主人が飲んでいる頃は、いつも自分は正しい、私は何にも悪いことをしていない。悪いのは飲む主人だと思っていました。また、どうしてうちの主人だけがこんなにだらしない、人間の屑みたいな飲み方をするのやろうかと、そんな思いでしか主人を見なかった。

共学で酒害の本態をはじめて知る

断酒会と出あって、主人と共に例会にくる中で、主人の体験談も聞き、そうだったのか、主人は飲んでいて時会話もなくて自分の思いが私に伝えられなくて、飲みながら涙を流していたのだなあと言うことが伝わってきた。私は何にも見えていなかったなあ、見ようとしていなかったなあと反省させられました。

回復を待つことが夫婦愛

断酒会に入会したら、すぐにお酒

がやめられるものと、思い込んでいましたから、主人が三ヶ月と七ヶ月の時に、イライラした時があったが、私には飲まないで我慢している主人の思いが見えないので、この人は何で？ みんなお酒をやめてしっかりしてらっしゃるのに、どうしてと、やはり私は他の人を見て、主人と真剣に向き合うことをしないで、人と比べて暮らしていたのです。

妻としての人生観を学べる断酒会

そんな私も、主人について例会に数多く出ているうちに、お酒をやめ

るということが、どんなに大変なこととで、主人の気持ちや発言で知ることができるようになって、初めて、真剣に主人と向き合って暮らせるようになって行きました。そうすると、自分の至らないところもいろいろ見えてきて、断酒会は私自身の人生の勉強の場所、主人の断酒継続のためではなく、私自身のための例会出席であることに気づいてきました。

私にとって今や断酒会はかけがえない大切なものになりました。これからもよろしく願います。



院内断酒例会概要

1968年1月 北九州断酒友の会
松ヶ江病院支部創立

月例会、「断酒松ヶ江」発刊
毎週2回夜間例会
オープン参加